

（2）円田盆地の近世墓について

県営ほ場整備事業に伴う近年の調査により、円田盆地北部では本遺跡のほか、磯ヶ坂遺跡（本章第1節）、前戸内遺跡（蔵王町教育委員会 2013）で近世墓群が確認されている（第57・58図）。ここでは、これらの近世墓群の内容を通観し、円田盆地における近世村落墓制について若干の検討を試みる。

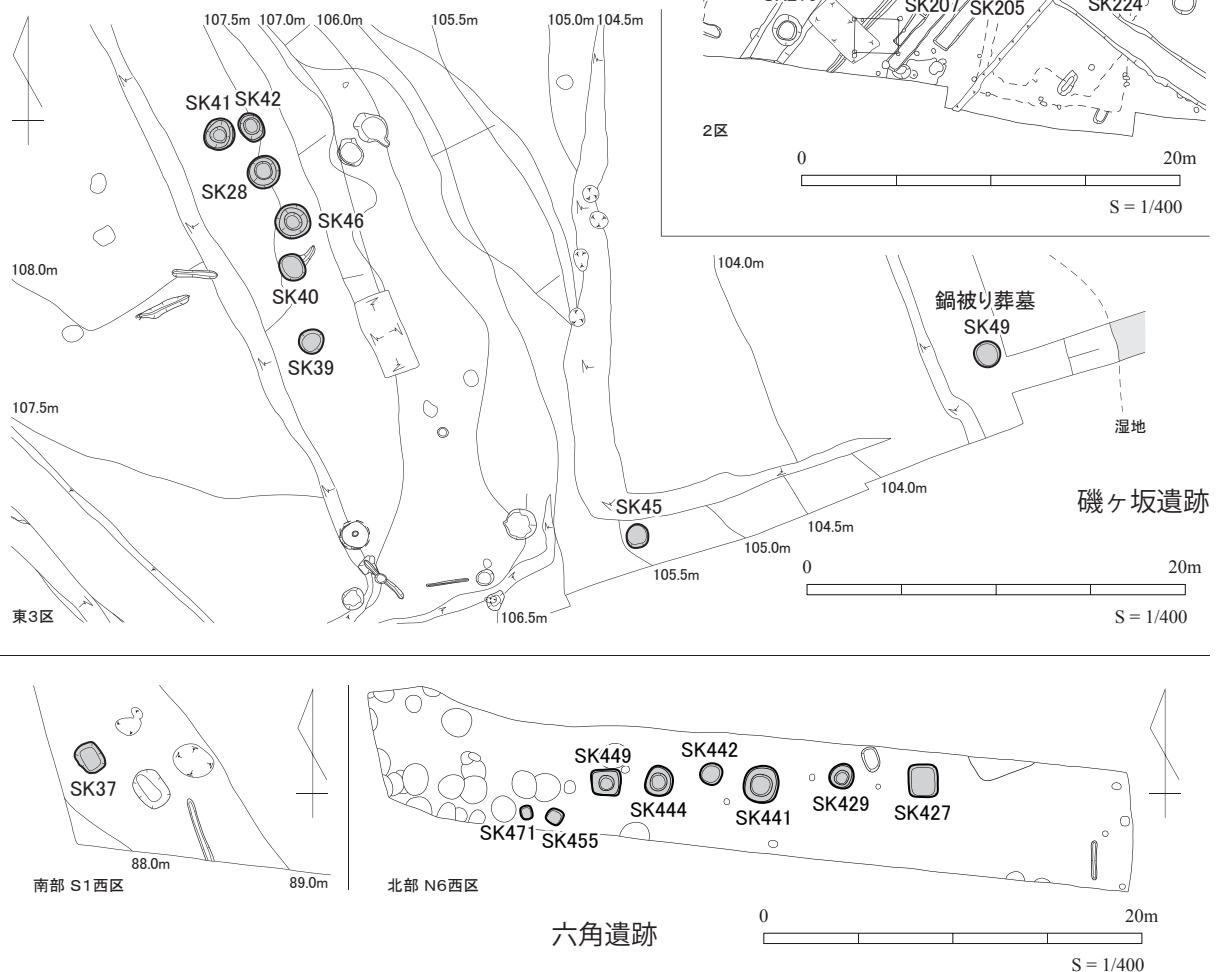
①立地と分布状況

磯ヶ坂遺跡 周囲の水田との比高差 5m ほどの小高い舌状の小丘陵上に立地する。近世墓は 8 基が確認され、このうち 6 基が丘陵尾根筋上に長さ 15m ほどの線状に並び、やや離れた東斜面に 1 基、東斜面下部の湿地際に 1 基が設けられている。周囲に墓以外の近世遺構は確認されていない。

前戸内遺跡 周囲の水田との比高差 1.5m ほどの微高地状を呈する舌状丘陵裾部に立地する。近世墓 10 基、土坑 4 基が確認され、東西 20m ほどの範囲にまとまって設けられている。土坑 4 基も位置関係から近世墓の可能性が考えられている。周囲にはこれ以外に目立った近世遺構は確認されていない。



第 57 図 近世墓群の位置



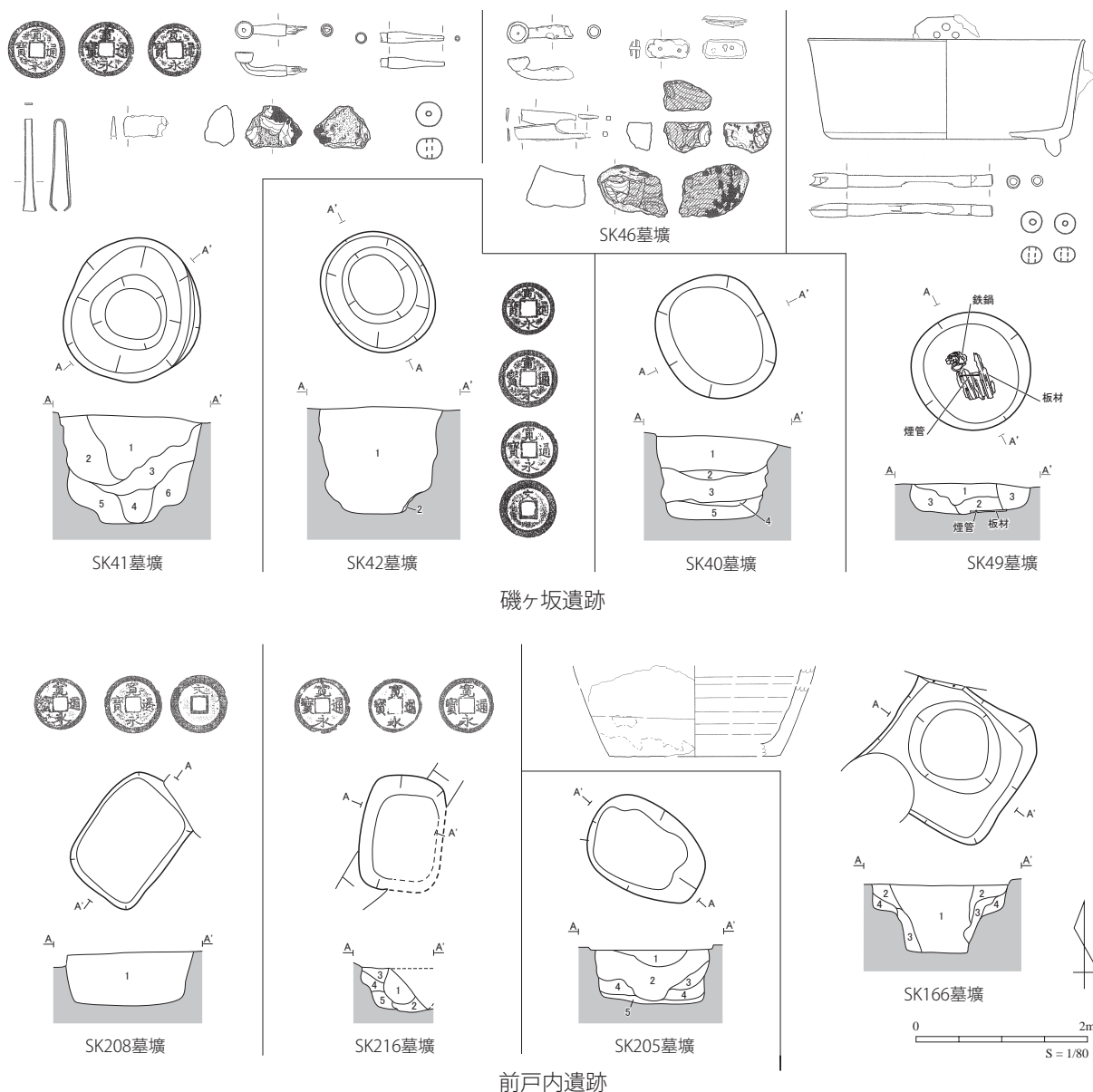
第 58 図 各遺跡の近世墓群

六角遺跡 周囲の水田との比高差 2~2.5m ほどの舌状丘陵上に立地する。近世墓は 9 基が確認され、このうち 8 基が遺跡北部の丘陵平坦面に長さ 20m ほどの線状に並び、1 基は遺跡南部の丘陵尾根筋上に設けられている。周囲に墓以外の近世遺構は確認されていない。

まとめ 低地に面した丘陵上に設けられるものが主体的である。いずれも周囲に屋敷などの存在を窺わせる遺構はなく、畑あるいは山林などの一角に設けられた墓域と考えられる。調査区の制約もあるため各墓群の全体の様相は必ずしも明らかでないが、概ね 10 基前後のまとまりで構成されるようである。磯ヶ坂遺跡・六角遺跡では直線状に配置され墓壇の重複は見られないが、前戸内遺跡ではやや不規則に配置され一部が重複する墓壇も見られる。

②墓壇の形態と埋葬様式

磯ヶ坂遺跡 墓壇の平面形は 8 基とも円形基調である。このうち中央部が円形に一段低く掘り窪められて断面逆凸字形となるものが 4 基（SK28・SK41・SK42・SK46）あり、丘陵尾根筋に線状配置された墓群の北部にまとまっている。湿地際に設けられた SK49 墓壇では鉄製吊鍋が逆位で出土し、鍋被り葬墓と考えられる。また、SK49 墓壇は周縁部と中央部の埋土が明瞭な不整合の関係にあり、底面に木棺底板と考えられる板材が遺存していた。これ以外に木棺の遺存する墓壇はなく、墓壇内の埋土は水平に堆積しているもの（SK40・SK45）、中央部の埋土が挿鉢状に堆積しているもの（SK28・SK41・SK46）、ほぼ単層のもの（SK39・SK42）が見られる。



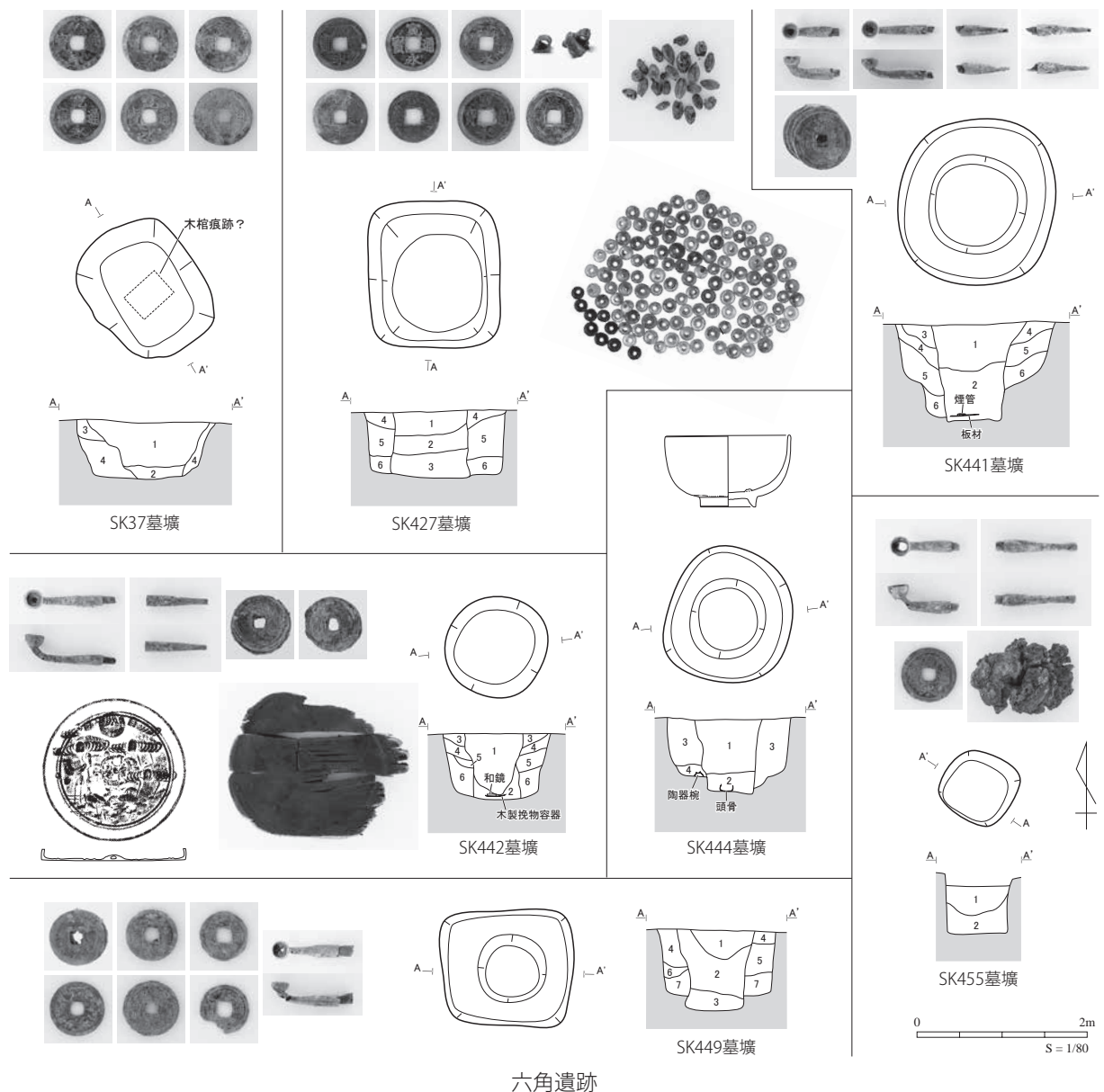
第 59 図 近世墓と出土遺物（1）

前戸内遺跡 墓壇の平面形は方形基調1基（SK166）、長方形基調9基である。SK166墓壇は断面逆凸字形を呈し、これ以外は断面箱形ないしは逆台形を呈する。木棺の遺存する墓壇はないが、SK166墓壇は周縁部と中央部の埋土が明瞭な不整合の関係にある。これ以外の墓壇の埋土は水平堆積（SK162・SK207）、挿鉢状堆積（SK205・SK216）、中央部の埋土が山形に堆積しているもの（SK163）、単層（SK206・SK208・SK217・SK224）が見られる。

六角遺跡 墓壇の平面形は長方形基調1基（SK37・SK427）、方形基調3基（SK449・SK455・SK471）、円形基調4基（SK429・SK441・SK442・SK444）である。円形基調のうち3基（SK429・SK441・SK444）と方形基調の1基（SK449）は断面逆凸字形を呈し、こ

れ以外は断面箱形ないしは逆台形を呈する。小型のSK455・SK471墓壇を除く7基は周縁部と中央部の埋土が不明瞭な不整合の関係にあり、SK441墓壇では底面付近に木棺底板と考えられる板材が遺存していた。これ以外に木棺の遺存する墓壇はなく、SK455墓壇は挿鉢状堆積、SK471墓壇は単層である。

まとめ 上部に盛土を伴って確認されたものではなく、墓壇の平面形で見ると磯ヶ坂遺跡では円形、前戸内遺跡では方形・長方形主体であり、六角遺跡では混在している。墓壇の埋土は①周縁部と中央部が明瞭な不整合の関係を示すもの、②中央部が挿鉢状に堆積するもの、③中央部が山形に堆積するもの、④水平に堆積しているもの、⑤ほぼ単層のものが見られる。木棺が遺存する墓壇はないが、埋土①のうち2基の底面付近



第60図 近世墓と出土遺物（2）

で木棺底板と考えられる板材の一部を確認している。埋土①の状態は、低湿地で木棺が良好に遺存した多賀城市大日北遺跡（多賀城市教育委員会 1998）、仙台市洞ノ口遺跡（仙台市教育委員会 2005）の調査例から木棺墓の堆積状況と判断され、墓壇の形状から六角遺跡 SK37 墓壇は方形木棺墓、これ以外は円形木棺墓であったと考えられる。また、埋土②～⑤の状態は、大日北遺跡、洞ノ口遺跡、栗原市下藤沢Ⅱ遺跡で確認された木棺を伴わない墓壇の堆積状況と類似し、直葬墓であったと考えられる。

以上のことから、磯ヶ坂遺跡では円形墓壇＋直葬墓 7 基、円形墓壇＋円形木棺墓 1 基、前戸内遺跡では長方形墓壇＋直葬墓 9 基、方形墓壇＋円形木棺墓 1 基、六角遺跡では長方形墓壇＋方形木棺墓 1 基、長方形墓壇＋円形木棺墓 1 基、円形墓壇＋円形木棺墓 4 基、方形墓壇＋円形木棺墓 1 基、方形墓壇＋直葬墓 2 基と考えられ、磯ヶ坂遺跡・前戸内遺跡では直葬墓、六角遺跡では木棺墓が卓越する傾向が見られる。

③出土遺物と墓の年代

磯ヶ坂遺跡 銅銭（寛永通寶）、煙管、和鋏、毛抜き、吊耳鉄鍋、火打金、火打石、ガラス製数珠玉などが出土している。六道銭は 3 基（SK41・SK42・SK43）で伴う。錆着により一部しか判別できないが、古寛永銭・新寛永文銭・新寛永銭があり、3 基とも新寛永銭を含むことから概ね 18 世紀代の様相と考えられる。煙管は 3 基（SK41・SK46・SK49）で副葬され、古泉弘氏（2001）による煙管の編年では第Ⅲ段階（18 世紀前半）に該当する。以上のことから、磯ヶ坂遺跡の墓群は概ね 18 世紀代の年代が考えられる。

前戸内遺跡 銅銭（寛永通寶）、煙管、陶器碗・甕などが出土している。六道銭は 4 基（SK163・SK166・SK208・SK216）で伴い、靱殻の付着するものがある。錆着により一部しか判別できないが、古寛永銭・新寛永文銭・新寛永銭があり、単一種で占められるものはない。このほかに年代の推定できるものとしては大堀相馬産の陶器碗（18～19 世紀）、村田塩内産の陶器甕

（19 世紀）がある。以上のことから、前戸内遺跡の墓群は概ね 19 世紀代の年代が考えられる。

六角遺跡 銅銭（寛永通寶）、鉄銭、煙管、青銅製和鏡（蓬萊鏡）、木製挽物容器、ガラス製数珠玉、陶器碗、炭化米などが出土している。六道銭は 8 基で伴い、銅銭は古寛永銭・新寛永文銭・新寛永銭があり、鉄銭は仙臺通寶とみられる。六道銭の構成は①古寛永通寶のみ（17 世紀中葉：SK37）、②古寛永＋新寛永文銭＋新寛永通寶（17 世紀後葉：SK427）、③新寛永通寶を含む（17 世紀後葉～18 世紀：SK429・SK441・SK442・SK449）、④鉄銭を含む（18 世紀末：SK455・SK471）と分類できる。煙管は古泉編年第Ⅲ段階（18 世紀前半：SK441・SK442・SK455）、第Ⅳ段階（18 世紀後半：SK449）と分類できる。このほかに年代の推定できるものとしては、青銅製和鏡（17 世紀：SK442）、小野相馬産の陶器碗（18 世紀中葉～後葉：SK444）がある。以上のことから、六角遺跡の墓群は 17 世紀中葉頃（SK37）、17 世紀後葉頃（SK427）、18 世紀前半（SK429・SK441・SK442）、18 世紀中頃～後半（SK444・SK449）、18 世紀末頃（SK455・SK471）の年代が考えられる（第 61 図）。

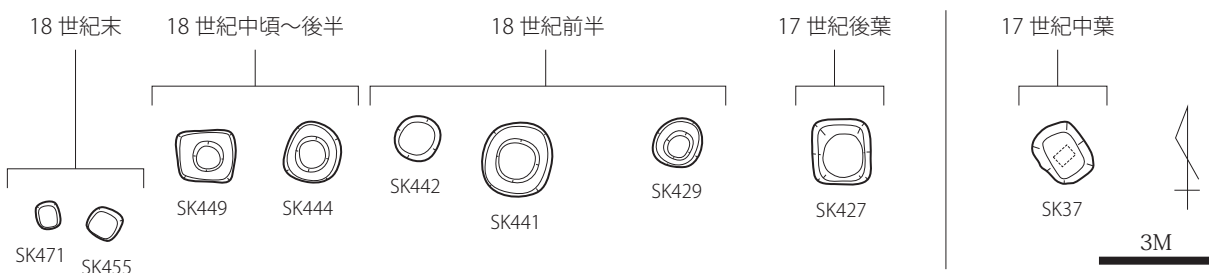
まとめ 六角遺跡の墓群では、六道銭と煙管、陶器の年代などから 17 世紀中葉～18 世紀末頃にかけての 5 時期に細分できた。また、一部年代の不明確なものも含まれるが、概ね磯ヶ坂遺跡の墓群は 18 世紀代、前戸内遺跡の墓群は 19 世紀代と考えられる。

④被葬者の階層

磯ヶ坂遺跡・前戸内遺跡・六角遺跡で確認されている各墓群における墓壇の形態と埋葬様式、出土遺物から被葬者の階層について検討する。

墓壇の形態と埋葬様式について見ると、確認されたものはすべて土葬墓であり、円形木棺墓、方形木棺墓、直葬墓で構成されている。埋葬時の地表面の状況は不明であるが、比較的近接した墓壇の配置状況から、大規模な塚を伴うものではなかったと推測される。

出土遺物には銭貨、煙管、和鏡、和鋏、毛抜き、鉄



第 61 図 近世墓の年代（六角遺跡）

鍋、陶器、数珠玉、火打石、火打金、炭化米などがある。これらの遺物は被葬者の生前の生活や、埋葬に関わった人々の地域的な風習を反映していると考えられる。

県内における近世墓群の主な調査事例としては、仙台市新妻家墓地（仙台市教育委員会 1986）、多賀城市大日北遺跡（多賀城市教育委員会 1998）、栗原市下藤沢Ⅱ遺跡（瀬峰町教育委員会 1988）などがある。新妻家墓地では 17 世紀後半～19 世紀の墓壇 25 基が確認されている。埋葬様式は甕棺墓、円形木棺墓、直葬墓があり、出土遺物には銭貨、刀、鏡、煙管、銅鑼、陶器、漆器、櫛、土人形などがある。当該墓地は伊達家の家臣であった新妻家、千葉家の墓域であることから、被葬者の階層は武士階級とされている。大日北遺跡では、17 世紀中頃～18 世紀後半以降の墓壇 70 基が確認されている。埋葬様式は円形木棺墓、方形木棺墓、直葬墓があり、出土遺物には銭貨、煙管、和鏡、剃刀、陶磁器、漆器、櫛、数珠、提灯などがある。埋葬様式や出土遺物から被葬者の階層は庶民階層の中でも豪農クラスと推定され、「江戸時代農村型」とする出土人骨の人類学的な調査結果とも整合している。下藤沢Ⅱ遺跡では 17 世紀前葉～19 世紀後葉の墓壇 28 基が確認されている。埋葬様式は方形木棺墓、直葬墓が確認され、墓壇のみのものと塚を伴うものがある。出土遺物には銭貨、煙管、和鏡、陶磁器などがある。当該墓地は下藤沢地区の旧家である門脇家の墓域で、その総本家は「上の庄屋」と称されている。

これらの調査事例と磯ヶ坂遺跡・前戸内遺跡・六角遺跡の各墓群を比較すると、大日北遺跡の状況と類似しており、下藤沢Ⅱ遺跡とは塚の有無で違いがあるが出土遺物の内容には共通性がある。一方、新妻家墓地では甕棺が用いられていることや刀が出土しているなど、出土遺物の内容に大きな違いが見られる。大日北遺跡・下藤沢Ⅱ遺跡の被葬者は庄屋・豪農クラスの庶民階層、新妻家墓地は武士階級と推定されている。

以上のことから、磯ヶ坂遺跡・前戸内遺跡・六角遺跡の墓群では甕棺が用いられず、武士階級を想定させる出土遺物が見られないことから、被葬者は庶民階層と考えられる。また、磯ヶ坂遺跡・六角遺跡の墓群については、出土遺物の種類や量の豊富さから大日北遺跡と同様に庶民階層の中でも豪農クラスであった可能性が考えられる。

⑤円田盆地における近世村落墓制（予察）

円田盆地で確認されている近世墓には 17 世紀中葉から 19 世紀代にかけてのものがある。このうち 17 世紀中葉のものは 1 例しか見られないが、単独で設

けられたと考えられる。これに対して、17 世紀後葉以降のものは丘陵部に 10 基前後の集中からなる墓壇群を形成していることが明らかになった。

東京都南多摩地域の江戸周辺村落の発掘事例では、17 世紀前葉までの墓壇は単独ないし数基が散在して確認されることが多く、密集して墓地を形成する事例は少ないのに対して、17 世紀中葉（多くは 17 世紀後葉）～18 世紀前葉以降の事例では、屋敷地ないしは近傍に一族累代の墓所を設けたイエバカ（ヤシキバカ）と考えられる墓壇集中が多く確認されている。このような一族墓（イエバカ）の形成は、近世の幕藩体制における農民支配や農村における「イエ」意識の浸透過程を示すとされている（長佐古 2001）。

六角遺跡では 17 世紀後葉から 18 世紀末にかけて 8 基の墓壇が設けられ、線状に並ぶ墓群を形成していた。墓群を形成した期間や墓壇の配置から、これらは一族墓と考えられる。また、磯ヶ坂遺跡では概ね 18 世紀代と考えられる墓壇 6 基が線状に並んでおり、これらも墓壇の配置から六角遺跡と同様に一族墓の可能性が考えられる。前戸内遺跡では、概ね 19 世紀代と考えられる墓壇 10 基が一部重複しながら不規則な集中域を形成しており、一族墓と考えられる磯ヶ坂遺跡・六角遺跡とは様相が異なっている。また、埋葬様式では長方形墓壇＋直葬墓が卓越し、比較的短期間に墓群が形成されたことが窺われることから、これらは集落単位の集団墓の可能性が考えられる。

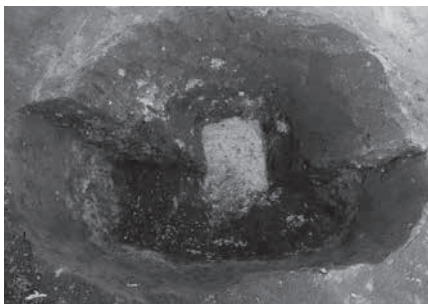
被葬者の階層についてはいずれも庶民階層と考えられるが、一族墓を形成した六角遺跡・磯ヶ坂遺跡では出土遺物の種類や量の豊富さから豪農クラスの可能性が考えられる。一方、集落単位の集団墓と考えられる前戸内遺跡では出土遺物の種類や量が少なく、一般庶民の墓と考えられる。

以上のことから、円田盆地の近世村落においては、17 世紀後葉頃に豪農クラスの庶民階層の一族墓が形成されていることが判明した。このことは、村落における墓制の変化が江戸周辺と大差ない時期に起こったことを示しており、当時の幕藩体制における農民支配や葬送儀礼の実態を知る上で重要と考えられる。

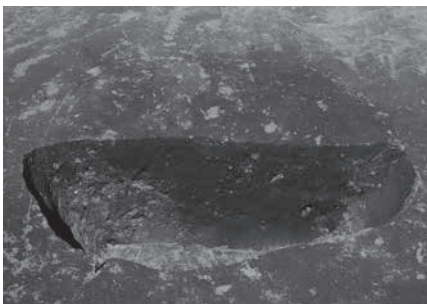
また、磯ヶ坂遺跡では丘陵尾根筋上の墓群から離れた湿地際に単独で設けられた鍋被り葬墓を確認している。鍋被り葬は中世末から近世の東北・関東・信州地域で特異な葬制として散見されるもので、特殊な病気や事件・事故による異常な死を迎えた者に対する葬送儀礼と考えられ（関根 2003）、当地域における近世の葬送儀礼を考える上で興味深い事例である。



1. S1 西区 西部 完掘状況 (南東から)



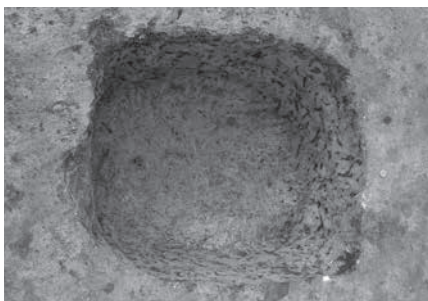
2. SK37 近世墓 方形痕跡確認状況 (南西から)



3. SK37 近世墓 断面 (南西から)



4. N6 西区 西部 遺構確認状況 (西から)



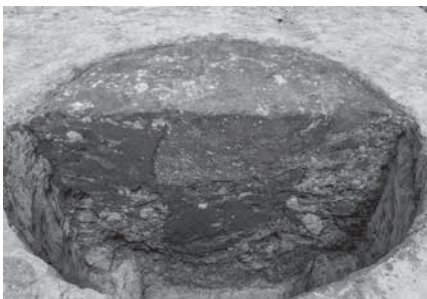
6. SK427 近世墓 完掘状況 (東から)



7. SK427 近世墓 断面 (東から)



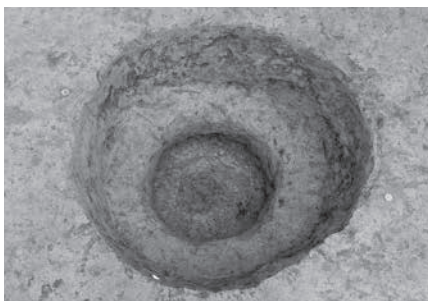
8. SK429 近世墓 完掘状況 (南から)



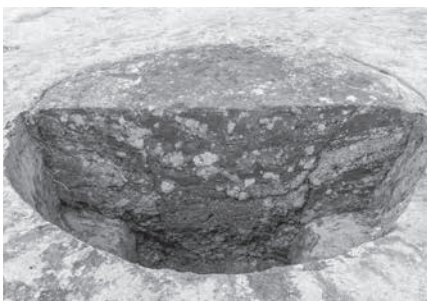
9. SK429 近世墓 断面 (南から)



5. N6 西区 西部 遺構確認状況 (東から)



10. SK441 近世墓 完掘状況 (南から)



11. SK441 近世墓 断面 (南から)



12. SK441 近世墓 遺物出土状況 (南から)



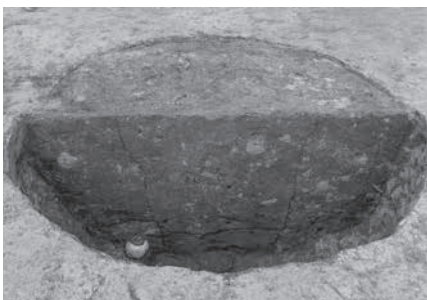
13. SK441 近世墓 遺物出土状況 (西から)



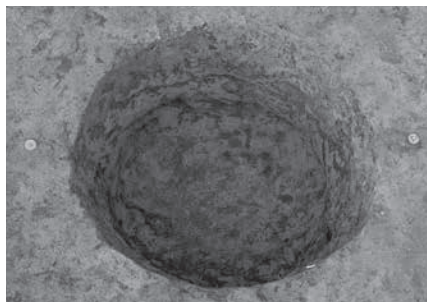
14. SK444 近世墓 遺物出土状況 (南から)



15. SK444 近世墓 遺物出土状況 (南から)



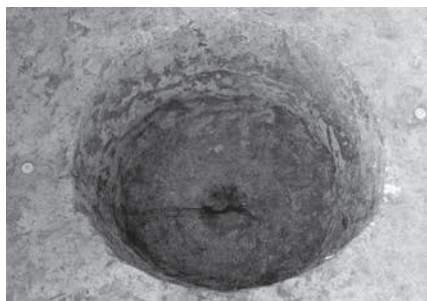
16. SK444 近世墓 断面 (南から)



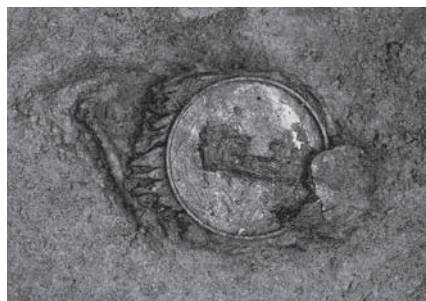
1. SK442 近世墓 完掘状況（南から）



2. SK442 近世墓 断面（南から）



3. SK442 近世墓 遺物出土状況（南から）



4. SK442 近世墓 遺物出土状況（北から）



5. SK449 近世墓 完掘状況（南から）



6. SK449 近世墓 断面（南から）



7. SK455 近世墓 完掘状況（北東から）



8. SK455 近世墓 断面（北東から）



9. SK471 近世墓 完掘状況（北から）



10. SK471 近世墓 断面（北から）



11. S1 西区 作業風景（南東から）



12. S1 西区 作業風景（南東から）